

説教余滴 2019年6月23日『赤い長靴』

昨22日は夏至でした。週半ば、朝起きて窓を開け、驚きました。入ってきた風がひんやりする。梅雨のさなかにこんなことがあったのか。蒸し暑いのが当然、熱風とは言わないまでも、この時期の朝風に涼気は期待できなかった、と記憶していました。勘違いかな。

今年の入梅は寒気を覚えるほどでした。例年は、南の梅雨前線が押し上げられて入梅、当然熱い空気が同行しています。今年は違いました。北から張り出して来た低気圧が雨をもたらしています。これをもって今年の入梅とします、と気象庁の発表です。このため、東北、関東、東海が先に入梅、西日本が遅れることになりました。

霖雨・長雨のこと、梅雨を意味する、とあります。ですから、入梅の発表は間違っていない。先週は長い中休みになっただけです。これから梅雨本番でしょうか。長靴を使うことになるのでしょうか。

幼稚園長時代のある朝、夜来の雨もやんで、気持ちよい空が広がっています。園児も元気に登園してきます。園バスもないので、父母と一緒にです。中には、おじいちゃんが送ってくるケースもあります。その朝、いつもは早く来る兄妹が来ません。ようやく到着。お兄ちゃんはすぐに園庭で遊び始めました。妹は、お母さんの陰に隠れて姿を見せません。実は、泣き顔を見られたくなかったようです。お母さんに聞きました。どうしましたか。

「この娘が、どうしても長靴を履くと言ってきかなくて、朝から遣り合っていました。

お天気なのに、長靴では、皆に笑われるよ、と言ったのですが」。

その足元を見ました。履いていました。赤い長靴。ピーンとききました。

「ひなちゃん、鉄腕アトムだね。ウランちゃんなんだ」。

この子はそこで初めて顔を出して、嬉しそうにこっくりしました。そこからは教師に任せて、お母さんと少しかけ対話。梅雨時の記憶です。